鉄鋼ニュース

今年の世界鉄鋼業の展望

鉄鋼連盟の調査によると，世界的な傾向として鉄鋼の生産能力は引続き増大するが，上昇率は鈍化する．一方後進諸国に対する輸出競争は激化するだろうと次の通り見ている．

アメリカにおいては，上期は調整的後退，下期好転でヨーロッパにおいては大勢として横這いということができる．世界景気はアメリカおよび西独の政策に大きく支配されるものと見られるが，両国とも景気支持政策に何らかの対策をとることは1月 10 日に発表されたアイゼンハワー大統領の教書によつても明らかであるから，全般的な景気後退は起らないと判断してよい．しかし鉄鋼の輸出競争は一層激しくなることが予想される．

東南アおよびラテンアメリカの外貨バランスは，特定の国を除いては極めて悪化しており，たとえアメリカの援助政策がとられるとしても主要製鉄国の売込競争は弱められるとは考えられず，ヨーロッパの輸出カルテルの実勢価格は大幅に協定価格を下回つており，今後ますますカルテルの強味を発揮してくることが予想される．

世界鉄鋼業で共通した点は，コストの低減あるいは合理化のための資本支出は，既定の長期計画の線に沿つて継続される見通しであることと，価格上昇の要因が依然として存在し，米，独，英の3大製鉄国においては年内に価格の引上げが必至とみられるとしている．

32 年の貿易額

大蔵省の発表した通関実績（税関通過を基準とした貨物の輸出，輸入額）によると，32年中の貿易額は，輸出 285256 万ドル（前年比 14·1%増），輸入 428337万ドル（同 32·6%増）で，輸出入とも戦後最高であつたが，輸入の増加の方が輸出の増加をはるかに上回つたため入超も 143080 万ドルとこれまた新記録を示した．通関実績の内容を類別に見ると，輸出額の最も大きいものは繊維類の 101500 万ドル（総額比 35·6%），第2位は機械類の 62500 万ドル（同 21·9%），第3位は「その他」（おもちや，合板，木材など）の 46500 万ドル（同16·3%）である．輸入では第1位繊維原料 82500 万ドル（同19·3%），第2位金属類および屑鉄 69300 万ドル（同16·2%），第3位鉱物性燃料 68000 万ドル（同15·9%）である．

つぎに品目別では，輸出は船舶が 34500 万ドル（前年比 32·7%増），で第1位となつた．第2位の綿織物は 31700 万ドル（同 18·8% 増）で，首位を船舶に奪われたが，数量，価額とも戦後最高であつた．第3位鉄鋼 20900 万ドル（同 6·3%減），第4位スフ織物 15300 万ドル（同 25·4%増），第5位衣類 14300 万ドル（同16·5%増である）．輸入では石油が綿花を抜いて第1位となり 49100 万ドル（同 56·8%増）となつた．第2位は綿花で 44800 万ドル（同 6·7%減）だが数量はふえている．第3位は鉄鋼で 30500 万ドル（同 400·9%増），第4位鉄鋼屑 28500 万ドル（同 55·3%増），第5位羊毛 26500 万ドル（同 19·7%増）であつた．

32 年の鉄鋼生産実績

鉄鋼連盟の鉄鋼生産高速報によると，32 年の生産高は，高炉銑 6,435,120 t（31 年暦年計 5·703,910 t），粗鋼 12,564,383 t（11,106,386 t），普通鋼熱間圧延鋼材（一般）8,878,519 t（7,792,676）といずれも創業以来の最高を記録した．ただ特殊鋼鋼材のみは昭和 19 年の 636,867 t におよばず，625,256 t にとまつた．

主要品種別内訳は次の通り，（単位 t，カッコ内前年計）

重軌条	397,183	(314,762)
鋼矢板	42,143	(28,546)
大型形鋼	423,922	(307,923)
中型形鋼	562,039	(494,535)
小型形鋼	71,867	(67,168)
大型棒鋼	12,826	(10,531)
中型棒鋼	122,085	(95,902)
小型棒鋼	1,127,311	(1,011,513)
普線	540,221	(572,137)
厚板	2,364,978	(1,921,527)
中板	290,990	(310,736)
薄板	620,876	(667,063)
広巾帯鋼	1,048,529	(890,428)
帯鋼	508,139	(496,749)
硅素鋼板	127,585	(90,433)
外輪	83,271	(74,728)

その他鋼材の主なもの

鋼管	574,165	(509,081)
鋳鉄管	181,033	(163,343)
ブリキ	245,801	(244,700)
亜鉛鉄板	634,908	(590,194)

鋼管川崎の純酸素転炉火入れ

日本鋼管では，同社川崎製鉄所に純酸素転炉2基（42 t）の建設を進めていたが，この程その1基が完成したので1月21日火入式を行つた．

さきに同社は第2次設備合理化計画の一環として純酸素転炉2基を建設することになり，オーストリアのアルピネ社から特許を購入，炉体をドイツのデマーグ社に発注，第4，5転炉を取壊し，昨年7月から建設工事に着手，約 16 億円を投じて工事を進め，その1基が完成，他の1基も2月中旬には完成することになつており，2基完成後の月産能力は4万 t となる．また将来は水江地区にもこの純酸素転炉（60 t）3基が建設されることになつている．

八幡洞岡第4高炉出銑 200 万 t 突破

八幡製鉄所の洞岡第4高炉は，昭和 27 年 12 月1日に第3次の吹入以来，順調な操業を続けているが，1月10日までの出銑累計が 2,000,623 t で，1日当り平均 1,071 t，コークス比平均は 0·714（6カ年間平均）となつている．従来の日本記録は日本鋼管大島第4高炉のもの総出銑 1,560,136 t，八幡製鉄の記録は洞岡第3高炉のもつ 1,476,851 t だから洞岡第4高炉はこれらのレコードを大幅に更新したわけである．

なおアメリカには 250万 t というレコードもあるが，第4高炉は炉体もまだ大丈夫だし，総出銑 300万 t も不可能ではあるまいとのことである．